

## 新文化会館建設

## 難航の末、工事着工へ

建築本体・機械設備工事契約締結を可決  
総事業費48億円から60億円へ

25年第3回臨時会 10月21・22日

- 臨時会のあらまし…………… 2
- 60億円の財源内訳はこうなる…………… 3
- 検討特別委員会での市長の説明…………… 3
- 総事業費のわかる資料を提出せよ…………… 4
- 進むかやめるかの判断基準が不明確…………… 6
- 採決結果表…………… 8

# 市民へのきちんとした説明と 一層の事業費削減を求める

25年第3回  
臨時会



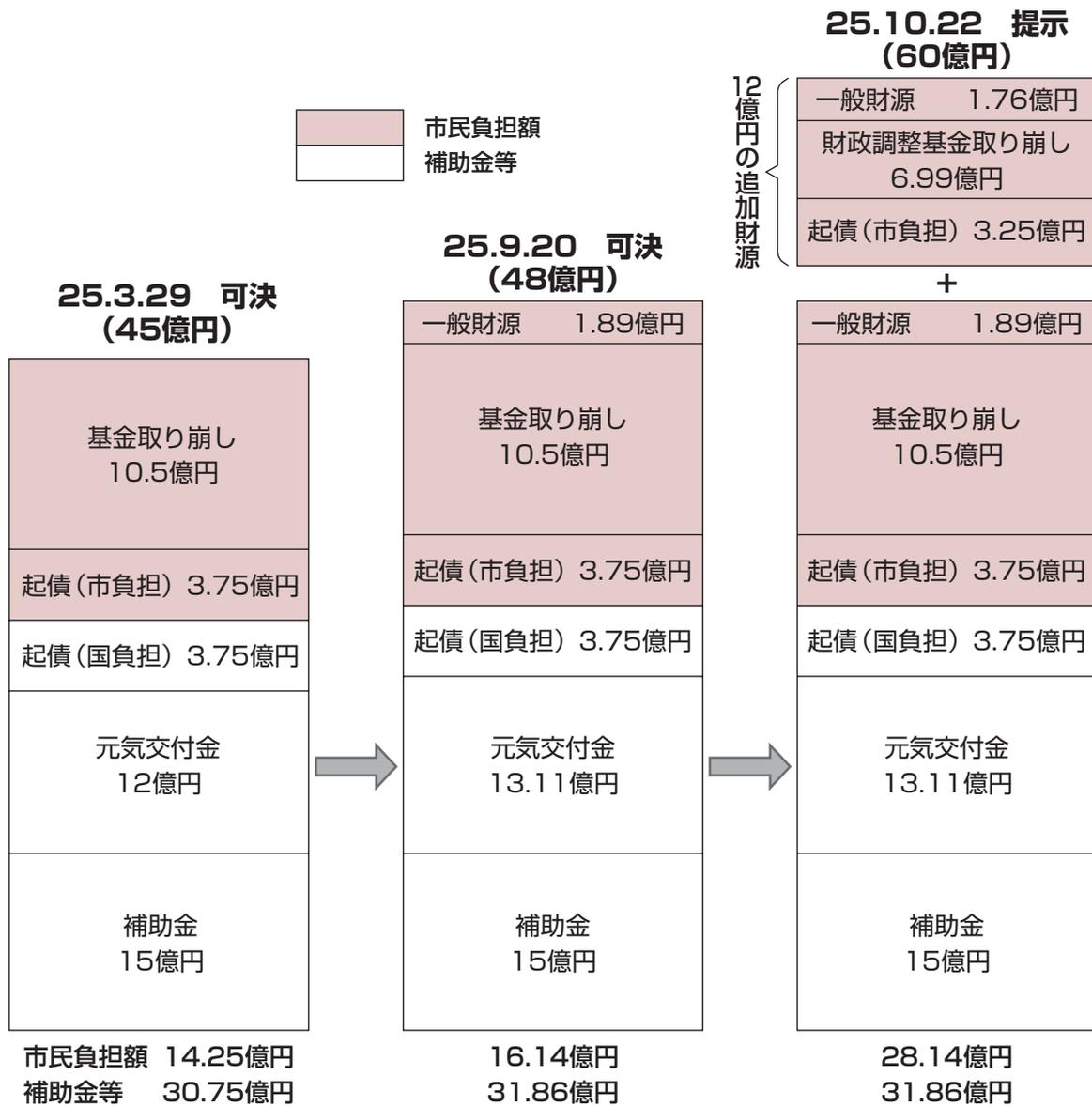
## 臨時会のあらまし

10月21日臨時会を開き、新文化会館施設建築・機械設備工事請負契約の締結議案を審議しました。9月定例会で本工事業締結議案が総事業費の不明確さや当局の説明不足等で否決。しかしその後、物価高騰の理由により3億円の追加補正予算が承認され、再入札の結果、戸田建設・松田組・那須建設の共同企業体が23億8600万円(税抜)で落札。これを受け、今回の締結議案が上程されました。

質疑では、いったい総事業費がいくらかかるのか明らかにすべきとの意見が出され、当局から48億円から60億円に膨らむ資料が提出されました。議会は、当初の予算より大幅に上回っていることに猛反発、議会が紛糾し中断されました。その後、後議会を再開し、新文化会館建設検討特別委員会に何故このようになったのか十分に説明するべきとし、会期を1日延長、審議は翌日に持ち越しとなりました。2日目には、本会議の審議に入る前、前日行われた新文化会館建設検討特別委員会の委員長報告と当局の説明を受け、質疑討論を行いました。その後、本会議

の審議を行い、議会側からは事業を中止した場合の市の損失、事業の見直しを図るため補助金の期間延長の可否、今後の市財政状況や他の事業への影響等の質疑が出されました。質疑の後、起立採決の結果、賛成11、反対5の賛成多数で契約締結議案は可決されました。これで文化会館建設工事が本格的に始まりますが、行政側の市民への説明と、事業費の一層の削減に努めるよう見守っていかなくてはなりません。(質疑の詳細はP4〜7をご覧ください)

# 新文化会館建設に係る財源内訳推移



## 市長説明要旨(新文化会館建設検討特別委員会)

当初は外構と備品以外は45億円の中に入っているというところで進めてきたが、残念ながら資材の高騰、業者の人手がないということもあって毎回単価が上がり、ものによっては倍となった。

合わせて約10億円。なぜかと言えば躯体工事に係る資材の高騰、型枠、鉄筋、鉄骨というものが上がっている。3割から5割上がっている。

前回3億円プラスなれば機械設備工事と今回出されている5億円も含めて入札できると進んできたが、先般9月18日の入札であれば4週間経って積算したら違ってきた。差額が調整できず1社しかないのでは話し合いになった。工期も考える

見直しには時間がない。構造計算の必要がある設計見直し、規模縮小となれば設計に2ヶ月、確認審査に2ヶ月かかる。今年度の出来高はできない。補助金が来ないと歳入不足がおきる。やむなく機械設備を変更して対応した。

と今契約をして、基礎工事に入り、躯体工事に入る前に見直ししながら単価を下げたい。設計変更すると期間が足りないし工期が短い。今回外した舞台装置、

機械設備もさることながら本体も基礎工事している間に見直しが出てくる。機械も必要最低限で単価を下げられる。今日新しく出してきた3億5千万円の備品関係は、極力本当に必要なものだけで抑えたい。

25年第3回  
臨時会  
1日目

本会議、3時間空転

# 起債の上限額 (借金)

## 厳守を求める

### 臨時会の会期を延長する異例の事態

#### 総額の数字入りの資料を

川合 猛 議員

◎今回の工事の総額はいくらになるのか、ちゃんと細かく数字の入った資料を出してほしい。また万が一、今日否決となり、工事中止した場合、損失はどれくらいになるのか。

〈市長〉現在物価高騰で相当予測するのが難しいわけだが、細かく設計書からひろつけないので、職員から答えさせたい。なお次の質問だが、そういったことを想定して私共は事を進めていないので、積算はしていないが、これまで既に発注されたものについては議員が心配している内容に該当するものではないか。

〈文化会館整備課長〉

備品関係はまだ最終的な積み上げはしていない。内訳は、建築については全て網羅されている。機械設備等については、今回除かれているのは後付けになるいわゆるユニット関係それから機械設備等(ポイラー棟)については別途発注ということになっているので、こちらの主な設備工事、それから建築工事が除かれている。

ここで休憩を議長が宣し、当局の資料提出を待つ。3時間に及ぶ空転の後審議を再開した。

〈文化会館整備課長〉

現在26年度までの文化会館整備事業については48億円となっており、予算額をここに提示しているが、既に実施済みの実施設計、土地の購入、事務的経費のほか、工事の予算額は43億円となり、予算残額は1億3800万円。

今後の見通しだがポイラーと設備棟を別途建築、空調を行うためのクーリングタワーとか冷温水発生器を入れて5億円。その他不足額として舞台音響、照明施設管理備品がある。できるだけリースや新規でない購入方法によっても十分な軽減が図れる。それを踏まえて減額に努める。工事中止した場合は、実際的に補償となると業者からの請求金額が出てくると思う。木材調達、

それからバイオマスポイラー、木造の造作工事は既に始まっているし、電気工事についても保証協会等含めて契約が行われているというところ。また切り土工事についても既に行なっている。金額的には今回の本工事を除く18億円を超える金額については、いわゆるお金が戻ってこないというか、補償の対象になるのではないかと思っている。

◎私はもつと簡単に答えがでるものと思っていたが、ここまで時間がかかるとは思わなかった。今後のことになると思うが、やはり少しでも内容の見直し等を図っていただき、1000万円でも2000万円でも少なくとも努力していただきたい。

# 工事費の増は市長の判断ミス

高橋 一郎 議員

◎今、61億円を超える

全体の事業費が出てきた。9月議会でも質問したが、その時点で出てもよかった。余りにも遅くこの資料が出るということに議会を軽視していると言わざるを得ない。全体事業費がわからないと、市民はいま45億円と思っている。建設検討特別委員会が前提条件とした9億6000万円の起債という制限がある。今後新規事業について制限のわからないようにということについてはまさしく反故にしているのではないか。また61億円の場合、起債がどの程度になるのか。実質公債費比率や将来負担比率などの財政の

計画はどうなるのか。

〈市長〉 先程、担当課長が話した内容のもも大部分はこの中に組み込まれるという予定で進めてきたが、その後実際入札という段階で予想以上の資材あるいは人件費その他諸々の高騰で2割、また前回よりも一ヶ月遅れればさらに何割か上がっているということ、毎回入札するたびに必要な内容が外れるということ、大変私共としても残念。当初からこういう内容になるということではなく、当初は45億円、その他外構と一部備品で対応できるという考えで進めてきた。そういう意味では大変大きくなった。

ただ実質3億7500万円の起債だから、当初の9億6000万円を考えれば、少し余裕があるのではないか。あるいは基金の取り崩しも余裕を持っているということ、それらをベースにあとは年次計画でしっかりと対応したい。なお高騰分については今後皆さん方に丁寧にご説明申し上げます。ないといけないと思っ

ているので、これから残されたいきいきトク等ではしっかりと説明をしていきたい。将来負担比率はそう大きく変わらない。実質公債費比率も必要な繰上償還などで対応すれば大きく数字は変わらない。◎わかるようなわからないような話だが、9億6000万円に対しては

超えるとも言っていない。私は超えるのではと言っている。そもそも9月の入札を一般公募すればよかったのではないか。22億円でできる業者は地元業者ではないはずだ。市長のミスだ。市民から見れば損害賠償ものではないか。市長の不信任に値する。もう一度業者を変えて指名競争入札できるのではないか。

超えるとも言っていない。私は超えるのではと言っている。そもそも9月の入札を一般公募すればよかったのではないか。22億円でできる業者は地元業者ではないはずだ。市長のミスだ。市民から見れば損害賠償ものではないか。市長の不信任に値する。もう一度業者を変えて指名競争入札できるのではないか。

## 再審議を経て議会の総意

# 市民負担の

# 拡大を避けよ

## あらゆる手段で事業費の削減を求める

### 進むかやめるかの判断基準を

白岩 孝夫 議員

◎昨日依頼した資料の提出に感謝すべきところだが控える。我々は当局から説明いただいた賛成反対があるわけだから、もし賛成を求めるのであれば早めに事前に出してほしい。本来抜本的に見直すのが当然だが、なぜ中止できないのか。中止によつて市民の皆さんがどう困るのか。また大問題だから改めて市民に説明会が必要だ。

〈市長〉多くの市民の要望を受けて取り組んだ政策であり、国県の支援をいただいで取り組んできた内容でもある。その結果非常に有利な補助を受けた。しかし、近隣や県外も含めてこの建設業界の動

向を見ると、いずれも3割ぐらいの追加補正をして取り組んでいる。だからしょうがないという訳じゃないが、既に取り組んでいる作業であるし、多くの市民の期待も大きい。さらに高い補助率で取り組めるのは、これを逃せばしばらくの間できない。すると今の市民会館が使用禁止になるリスクも抱える。さらにすでに発注している18億円に近い、あるいは超える責任が負担として出てくる。説明については適切に対応する。白岩議員もここでしていただきたいというところがあれば、いつでも参上して必要な説明をさせていただく。

◎市民の皆さんが考えるのはその18億円。中止すれば負担だけで資産も何も残らない。進んだ場合の具体的な負担はどうか。説明会については呼んでいただければではなく、市民の皆さんに積極的に入っていくことが必要だ。聞かれれば答えるが聞かれるまでは答えられないという雰囲気がある。そうではなくて、ぜひ話を聞いてくれと熱意を持って説明を。

〈市長〉説明は必要ない対応をする。例えば白岩議員の会合があればぜひその場に立たせてくれという意味だ。また、中止するということがになれば、これは一般財源を全部充当しなければならぬ。簡単に用意できるものではない。しかしこのまま進めれば、3割ぐらい

の増になるが、市民の皆さん方に大きな負担をかけずに、進める手法を選択することができる。

◎説明会は呼ばれたときだけでなく、市長自ら集めてやる必要がある。それと当初の45億円と60億円を比べて、進めた場合15億円の増、中止すれば18億円。この理解でよいか。

〈市長〉やめれば補償金、違約金だけ払わなければならないということだ。赤字だけ残る。やれば必要な立派な資産が残る。単純に15億円と18億円の比較ではなく、15億円の場合もしっかりした文化会館が残る。そしてみんなが使える。何も無いというのに18億円と、立派な資産が残ったの15億円とでは比較にならないと思う。

# 事業縮小し工期延長せよ

片平 志朗 議員

◎民間レベルでは普通、事業を縮小するか見直すかやめるか、どちらかだ。やめないのは行政だからか。税金だからできるのか。その考え方を教えていただきたい。

〈市長〉当初からそういうことがわかっていれば当然見直しもあつたと思うが、簡単に見直す時間も余裕もない。それは無理だ。特に今回は補助事業をベースにしている。

◎やめると言っている訳ではない。縮小とか見直しを本当はすべきだ。急激な物価変動状況、社会情勢というのは誰も予測がつかなかった訳だから、これは市長の責任とは言わ

◎今、この構想が一年

も市民に本当に毎日の生活に不自由するようなダメージは与えない。だがやめれば18億円借金が残って財産価値はゼロみたいな脅し文句では市民は納得しない。再生可能エネルギーとか森林の再生も含めた構想は大賛成だが、事業を縮小して進めてはどうか。補助金の絡みで期日が問題だが延ばす努力はしているのか。

〈市長〉すでに24年度の事業を一年繰り越しして取り組んでいるので、行政の仕組みでそれ以上はできない。時間があれば当然見直しができるが、見直しをしている間にも工期がなくなり結果的に何もできなくなるので、ぎりぎりの決断をしている。

# 市長の責任は重大だ

佐藤 明 議員

◎追加分は地方債が3億2500万円、財調が6億9900万円、一般財源が1億7600万円、計12億円という財源の内訳だ。これは市民の貴重な税金。これによって新規事業に相当影響ある。昨日の特別委員会では、市長はゼロとは言えない

〈市長〉改めて確認するまでもなくそういうルールだ。特別な事項、建てる場所が地震とか災害とかで誰が見ても明らかに直ちに対応できないということであれば、まだ話は違つかもしれないが、この度は理由がない。

◎追加分は地方債が3億2500万円、財調が6億9900万円、一般財源が1億7600万円、計12億円という財源の内訳だ。これは市民の貴重な税金。これによって新規事業に相当影響ある。昨日の特別委員会では、市長はゼロとは言えない

のかどうか。

〈市長〉先の見えない部分もあるので明確なことは言えないが、いろんな手法で他の事業に支障ないよう努力すると約束したい。説明については責任を持つて説明しろと、私もその通りと思っているの

で、しっかりと適切に対応していく。変更についてはこの補助申請の際に自ら何回もお願いをして、その実情、条件の制度は私が一番理解している。東京に行くたびに責任ある方とお会いしてためだと言われている。

てきた。我々はいや、そうかなと、非常に疑問、懸念があった。それにも関わらずそういうことをずっと言ってきた。これは明確にあなたの責任問題だ。そう思わないか。

〈市長〉当時の段階では与えられた予算の枠内できると設計屋さんも含めて何回も打合せしている。それでもなおかつ枠の中に入らなかったというのが現状。判断の甘さはあつたがそれ以上でもそれ以外でもなかったのではないかと思っている。

◎今の答弁では、自分は正しいのだという言い方だが、やはり政治的な責任が問われるのではないか。

〈市長〉それ以上言われても、何とも私の能力ではあの段階ではできなかつた。

# 新規事業抑制につながらないか

山口 正雄 議員

◎大幅増額は、市財政の余裕度が低くなる。

何かが起きれば起債の確率が高くなり、また、新規事業の抑制につながらないか。実質公債

費比率は18%未満でいけるのか。市長はこの金額からできるだけ圧縮したいと言っているが、南山形圏域の文化の殿堂にふさわしい建物に本当になるのか。

〈市長〉9億6000

万円を超えなければそういう心配はない。ただ基金取り崩しは災害時に不安だということ。は否定しないし、他の事業への支障もゼロとは言えないが、そうならないよう進めたい。単純に文化会館だけではなく中央公民館機能

# 入札業者を変えられなかったか

船山 利美 議員

も付いているので相当額が実は増えている。

その部分も含めると充分、南山形圏域、特に置賜中心の文化の拠点になりうる。

◎今後の財政運営のなかで従来と同じようなあるいはそれを上回るような繰上償還が本当に可能なのか。

〈市長〉そこはしっかりと守っていききたい。できるだけ市内の経済対策優先ということで必ずしも数字を減らすことだけがいいことではない。適切な数値を保ちながら市内の経済活性化にも力を入れていきたいし、両方のバランスをとりながら、しっかりと財政運営をしていきたい。

◎前回9月の入札と同じ業者が今回も入ったが、やはり積算も同じかそれ以上ということになると思う。そうするとその金額では絶対

できない。下がらないことは目に見えている。ご遠慮願えなかったのか。

◎文化会館整備課長〉一JVの入札しかなかったもので、どういう組み合わせでどの業者が入るということについては、何も指定したものではありません。

◎どうしても地産地消でなければならなかったのか。全国から公募という形での程度情報を得たのか。

〈文化会館整備課長〉地元の協力がなければ、

人を集めることもできないのでJVとした。

◎市民に対して資材の高騰で3割も上がったというだけで説明がつくと思うか。インフラ整備に支障はないのか。

〈市長〉多少難しい問題もあるかもしれないが前向きに進めていきたい。できるだけ、このことよっての通常のインフラ整備に支障がないよう進めていきたい。

ここで議長が休憩を宣し、会派別討議が行われた。再開後の表決で異議があつたため起立採決となり、賛成11、反対5の賛成多数で原案の通り可決した。

議案に対する議員の賛否表

議案	議席番号		氏名																
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
議第57号	白岩孝夫	高橋一郎	船山利美	山口正雄	白鳥雅巳	片平志朗	吉田美枝	梅川信治	川合猛	高橋弘	板垣致江子	高橋篤	田中貞一	遠藤榮吉	佐藤明	伊藤俊美	殿岡和郎		
	保	真	敬	敬	保	倫	倫	倫	敬	敬	真	保	無	無	無	敬	無		
	○	×	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	議	×	○	×		

\*○=賛成 ×=反対 議=議長(議長は採決に加わらない)  
\*会派 敬=敬陽会 保=保守・公明クラブ 倫=倫政会 真=真風会 無=会派に属さない議員

## 編集後記

全国初的大型木造耐火建築物ということで日本中の注目を集めている新文化会館建設。市民最大の関心事の旬な情報をお届けするため、議会報編集委員一同、10月号発刊から休む間も無く、臨時号発刊に向け精一杯取り組みました。

薫り高い文化の殿堂として、新文化会館が南陽市に大きな恵みを与えてくれることを切に願うばかりです。

編集委員長 片平志朗  
副委員長 山口正雄  
委員 白岩孝夫  
高橋一郎  
船山利美  
吉田美枝

